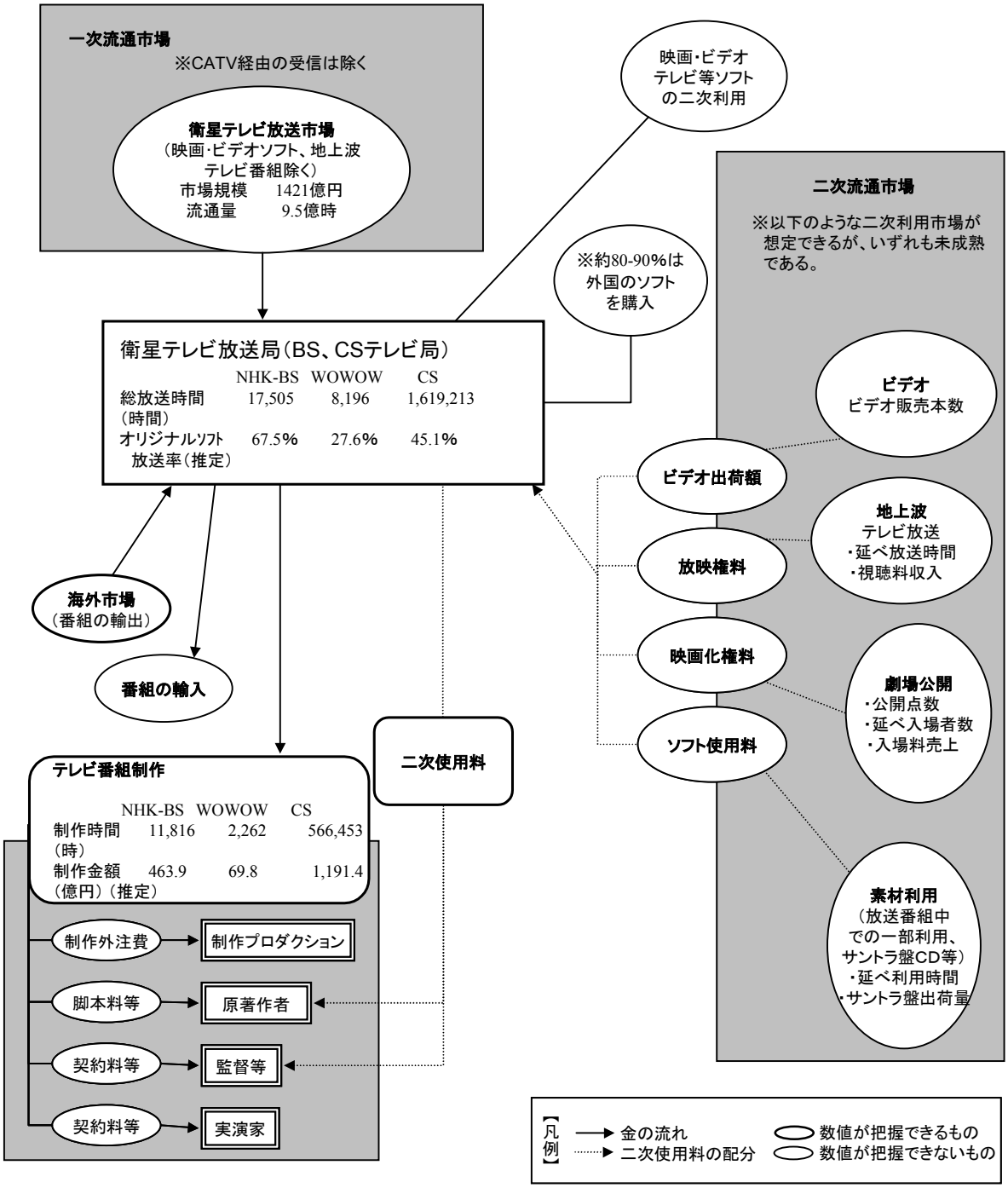
衛星テレビ番組市場の構造と規模（平成12年度）



※CS放送を行っている事業者は106社、チャンネル数を185で算出した。

衛星テレビ番組市場規模、流通量数値算出の基準

基本的な考え方

○衛星テレビ番組の市場規模は､BS 及び CS 放送による収入によって把握することができる。視聴方法が衛星波による直接受信によるものと、CATV 経由によるものに分けられるが､CATV 経由による流通量は CATV 番組として算出し､衛星波による直接受信のみの流通量を算出する。

○番組の素材としての一部利用の場合､その二次利用料については、テレビ番組のケースと同様に当面市場とは考えない。

○現在、CS アナログ放送は音声放送を行う 1 社のみになっているので、市場規模、流通量は算出しない。

○映画・ビデオ放送率及び再放送率は、各チャンネルの番組表からランダムに抽出した 14 日間の全日放送時間に占める映画・ビデオ及び再放送番組の時間比率から算出する。

衛星テレビ番組市場規模、流通量の算出方法

市場別		規模・量の考え方		算出方法・推定方法	典拠
一次流通市場	衛星テレビ番組としての放送（映画ソフト・ビデオソフトを除く）	市場規模	衛星テレビ番組が視聴者に受信されることによって生じる収入	衛星放送局の収入（営業収入、受信料収入）×非映画・テレビソフト放送率	NHK 年鑑
		流通量	1 年間に衛星放送契約者から視聴された衛星テレビ番組の延べ時間	年間衛星放送視聴時間×衛星放送視聴者数×非映画・テレビソフト放送率	同上
二次利用市場	ビデオソフトでの流通	市場規模	ビデオ化された衛星テレビ番組による収入	（当面考えない）	
		流通量	ビデオ化され、販売、レンタルされた衛星テレビ番組の収録時間の合計	同上	
二次利用市場	地上波テレビでの流通	市場規模	地上波テレビで放送された衛星テレビ番組によるテレビ局の収入	同上	
		流通量	地上波テレビで放送された衛星テレビ番組が視聴された延べ時間	同上	

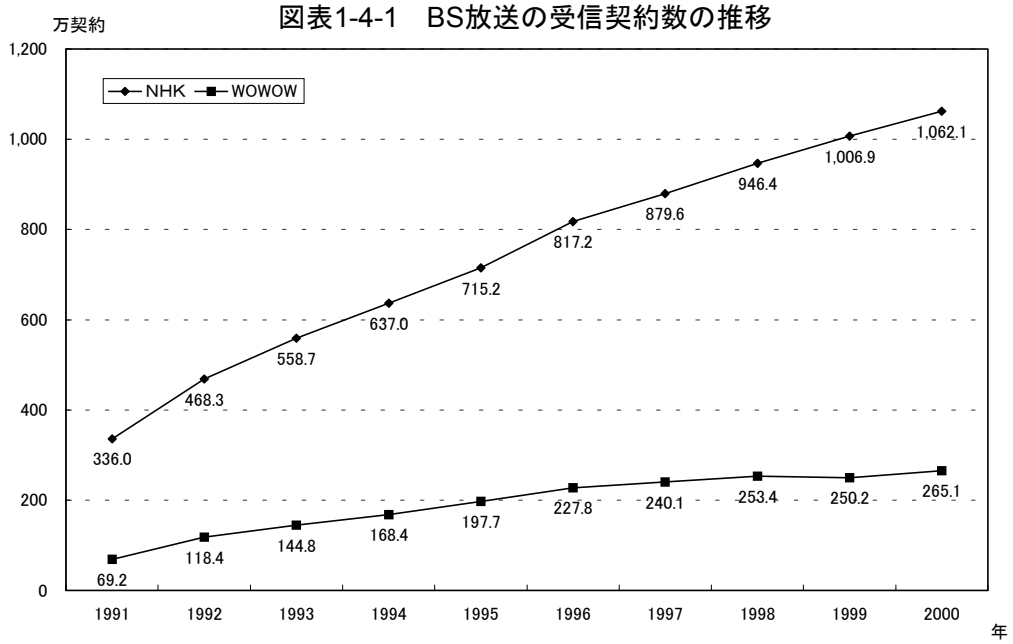
	映画として公開	市場規模	映画として公開された衛星テレビ番組による収入	（当面考えない）	
		流通量	衛星テレビ番組が映画として視聴された延べ時間	同上	
素材利用市場	他メディアのソフトの素材としての利用	市場規模	他メディアのソフトの素材としての利用された衛星テレビ番組による収入	同上	
		流通量	利用された衛星テレビ番組が視聴された延べ時間	同上	
ソフト制作	衛星テレビ番組の制作	制作金額	衛星テレビ番組の制作に要した費用	衛星放送局のテレビ番組制作費×非映画放送率 (CS 放送の制作費はスペースシャワーTV の制作費を使用)	NHK 年鑑、スペースシャワーTV 発表資料、WOWOW 発表資料
		制作量	制作された衛星放送オリジナル番組の延べ時間	衛星放送の全放送時間×オリジナルソフト放送率	同上
ソフト輸出入	衛星テレビ番組の海外輸出	市場規模	国内で制作された衛星テレビ番組の海外への輸出額	（当面考えない）	
		流通量	国内で制作され、海外で放送された衛星テレビ番組の量	同上	
	衛星テレビ番組の輸入	市場規模	海外で制作された衛星テレビ番組の輸入額	同上	
		流通量	海外で制作され、輸入された衛星テレビ番組の量	同上	

衛星テレビ番組市場の動向

○一次流通市場の動向

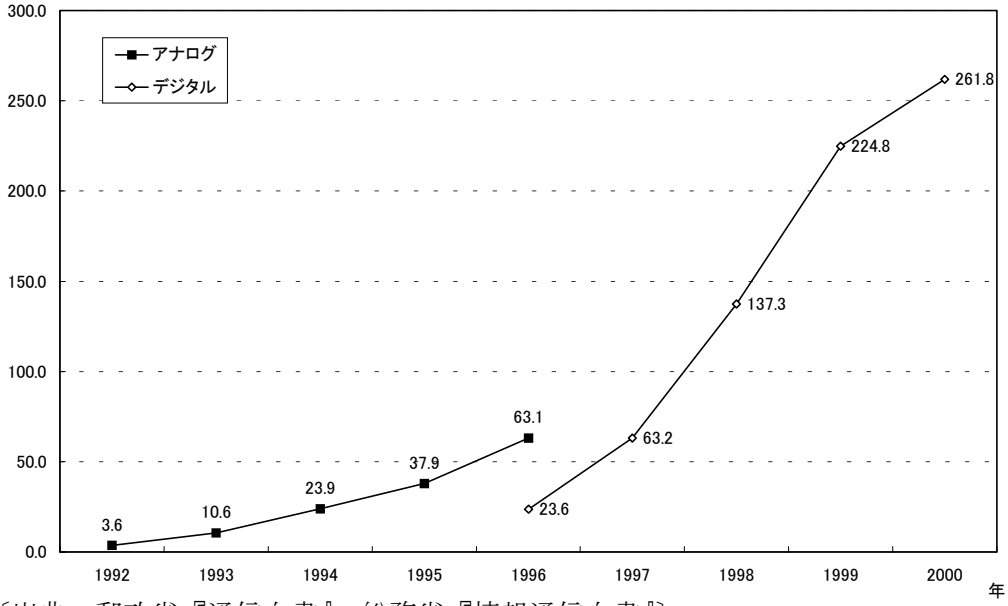
・衛星テレビ放送の受信契約数は着々と増加している。BS 放送では NHK-BS が 2001 年 3 月に約 1062 万件と 5 年前と比べ約 48％増加した。また、(株)ワウワウ(WOWOW)は約 265 万件であり、1997 年度以降ほぼ横ばいで推移している。一方、CS 放送では、1996 年度にデジタル放送が開始されて以来、加入者件数を着々と増やしている。2000 年度は約 262 万件(プラットフォーム事業者、スカイパーフェクト・コミュニケーションズの契約件数)と 5 年前の 11 倍になり、WOWOW の加入件数とほぼ同じにまで急成長を遂げた。（図表 1-4-1、図表 1-4-2）

図表1-4-1　BS放送の受信契約数の推移



〔出典：郵政省『通信白書』、総務省『情報通信白書』〕

図表1-4-2　CS放送の受信契約数の推移



〔出典：郵政省『通信白書』、総務省『情報通信白書』〕

○二次利用市場の動向

・衛星放送で放送される衛星放送専用ソフトの二次利用は、地上波テレビと比較すると小さい。従って、二次利用の市場規模、流通量の算出は当面考えない。

○ソフト制作の動向

・衛星テレビ番組の制作は、地上波テレビ番組の制作と比較して技術的にあまり差はなく、基本的には BS 放送では地上波テレビ番組の制作プロダクションの一部が衛星テレビ番組の制作を手がけている場合が多い。

・CS 放送のソフト制作を行う委託放送事業者はおよそ 100 社あり、地上波テレビ番組の制作プロダクション以外にも放送業に新規参入した事業者も増えている。CS 放送の委託放送事業者は CATV に番組を提供していることもある。

・地上波テレビ番組の制作費と比較すると、衛星テレビ番組の制作費は格段に安い。

○その他の動向

・2000 年 12 月より BS デジタル放送が始まった。高画質、高音質のテレビ放送に加えて、双方向性機能のあるデータ放送が BS デジタル放送の特徴であり、それぞれ別々のコンテンツが流通されている。テレビ放送を行う放送局は、NHK、BS 日テレ、BS 朝日、BS-i、BS ジャパン、BS フジの地上波系の 6 局と WOWOW、スターチャンネルの衛星系 2 局の計 8 局あり、データ放送を提供しているのは上記の 8 局

を含めた 16 局である。BS デジタル放送の視聴には、NHK には受信料が、WOWOW とスターチャンネルには視聴料が必要であるが、その他の放送は無料である。

・BS デジタル放送には動画ソフトに加えて、主に静止画ソフトを放送するのデータ放送がある。データ放送により、リアルタイムでの視聴者参加型双方向番組が可能になり、視聴するだけの番組ソフトだけでなく、視聴者に参加型の番組ソフトが制作されている。

・インターネットを利用して視聴者からスポンサーを募集し、その集めた資金で番組を制作する動きで出てきた。BS デジタル放送の BS フジは、一般の視聴者からテレビドラマを応援する会員をウェブ上で募集し、その会費で番組制作を行った。会員となった視聴者には、番組関連グッズや番組内の 30 秒程度の CM 枠を獲得できる等の得点がある。今までにない制作費の徴収方法と言えるだろう。

・BS 放送の衛星と同じ経度（東経 110 度）の衛星を利用した CS デジタル放送(110 度 CS 放送)が 2002 年 3 月から試験放送開始し、4 月には本放送を始める予定である。BS デジタル放送と同様に双方向性機能があるが、110 度 CS 放送ではこの機能でインターネット接続が可能となる。他にも番組コンテンツを蓄積できるなどの高機能化が 110 度 CS 放送の特徴である。プラットフォーム事業者として 2 社が参入しており、委託放送事業者として既存の放送局や番組提供業者を中心に計 18 社が番組ソフトを提供する。

・地上波テレビ放送局と同様に、衛星テレビ放送局もまたインターネットで番組ソフトを配信し始めている。しかし、地上波テレビ番組のインターネット配信と異なり、衛星テレビ番組のインターネット配信は多くの場合、有料である。

図表1-4-3　WOWOWとスカイパーフェクト･コミュニケーションズにおける番組ソフトのインターネット配信の取組み状況

	配信ソフト	ソフト内容の具体例	料金
WOWOW	放送番組の二次利用	全米/全豪テニス、欧州サッカー等のスポーツ番組等	有料： 月額¥500－¥1500
スカイパーフェクト・コミュニケーションズ(2002 年 2 月より試験放送開始)	放送番組の二次利用の予定。インターネット配信専用ソフトもある。	アニメ、スポーツ、音楽、旅行等の番組。CS 放送の委託放送事業者が番組を提供する。	有料： 月額¥200－¥2000 無料番組も一部ある。

〔出典：各局のホームページより作成〕